



「外国人観光客を倍増させる施策を提案せよ！」 新入生たちが宇治市の課題に挑む

追手門学院大学（大阪府茨木市、学長：川原俊明）は、国際教養学部国際日本学科の「キャリアデザイン論」（担当教員：豊島真介教授、齊藤一誠教授）で、宇治市の市民環境部長・松田敏幸氏らを招き、同市が抱える観光行政上の課題をテーマに、自治体の課題に取り組むプロジェクト型学習を実施しています。

プロジェクトがスタート

—宇治市の観光振興担当者が講演—

5月21日の授業では、新入生約180人を対象に松田氏が「宇治市を知る—特色、現状、課題と目標」と題して講演。平等院や宇治茶といった観光資源を挙げた上で、市の人口18.9万人に対して観光客が550万人に上るとの現状を説明。京都府を代表する観光都市である反面、「大型バスを多数受け入れる場所がない」「小規模都市なので観光客の滞在が短時間になる」といった問題点も解説。また、外国人観光客が市内でする金額の調査結果として、「5000円以上」と答えた人が17%に対し、「全く使わなかった」が40%に上った事実も明らかに。宿泊者収容規模が600人程度と少ないことから、日帰り型の外国人観光客誘致の施策に取り組んでいることなど、課題や目標も話しました。その上で、学生がこの授業で取り組む課題として「宇治市への外国人観光客を倍増させる施策を提案せよ！」というミッションが与えられました。



「キャリアデザイン論」1年生対象の「キャリアデザイン論」は、チームの中での役割を果たす過程で自らの強みや課題をつかむことを目的としています。今回の授業は、自治体が抱える課題に協働作業で向き合うことで、学生が主体的に将来を設計し、行動していくキャリアデザインにつながる機会となります。本学と宇治市は観光振興を基盤に教育、人材育成などを目的とした連携協定を締結しており、授業はその一環です。今後も学生と実社会との関わりを積極的に推進する本学の取り組みにご期待ください。

今後の活動にご注目ください！

—現地調査などを経て施策を発表—

受講する新入生約180人は約6人ずつのチームに分かれ、調査やデータ収集などのグループワークを行い、外国人観光客を市内に呼び込むアイデアを検討します。様々なデータを基に新鮮な視点で課題をあぶり出し、どんな提案を行うか議論を重ね、施策をまとめます。

6月11日には中間プレゼンテーションとして課題の進捗状況を報告。

7月2日、授業内でグループごとに発表。市の職員らが選ぶ「現場に持ち帰りたいと思う提案」が決定します。

日時：7月2日（月）3限（13：20～14：50）

場所：3号館：3202教室、3204教室、
4号館：4203教室、4402教室

講師：松田敏幸・宇治市市民環境部長ほか

対象：「キャリアデザイン論」（国際日本学科）を履修する本学の1年生180人

内容：■ グループ発表
■ 講評

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 足立・竹内